

この度はZ会東大進学教室の実力テストをご受験いただき、ありがとうございます。テストの成績表を見る際は、得点や偏差値よりも「どの単元ができなかったのか」、「どこを減点されているのか」といった答案の内容を見直すことが大切です。下記の各教科からのアドバイスを参考にしながら、復習に取り組みましょう。さらに同じ問題をもう一度解いてみることも効果的。復習によって「理解し、できるようになること」で、実力をつけることができます。これからも頑張りましょう！

英語 * 講評 *

【1】文法・語法の基礎知識を確認する問題で、高2のこの時期には全問正解したいところ。(7)ではstruckを選んだ誤答が多かったが、struckを用いるなら空所の後にtoはいらない。このように同義表現については知識の精度を問われることが多いため、注意が必要。【2】入試頻出事項であるasとthatの用法を問う問題。感覚的にはなく、文法的な根拠を説明できるようにしておこう。【3】【A】(3)では否定語littleが文頭にあるため倒置が起こることはわかっているが、動詞doesの部分の時制・人称を間違えるなど、基本的なミスがちなので注意。文法・構文は必ず英文の中で覚え、使えるようにしておくこと。【B】の整序英作文では特に(2)の正答率が低かった。「否定の目的」を表すso as not to do ... のnotの位置を正しく置けたかと、runをrun the risk ofの部分で用いることに気づけたかがポイント。【4】前置詞の絡む問題は入試頻出。文法書で前置詞の項目をしっかりと読み込んでおこう。このレベルの問題なら選択肢が与えられていなくても入れるべき語がわかるくらいにしておきたい。【5】単語レベルは標準であったが、「人間の欲求について」というあまり馴染みのないテーマだったこともあり、苦戦したかもしれない。和訳問題(B)は文構造を把握できていないとみられる答案が目立つ。一転して【6】は「高齢化」というよく話題になるテーマ。内容一致問題では精読力を問われる。この設問で失点している受験生は今一度、精読の必要性を見直し、構文解釈を通した正確な内容把握を心がけよう。

数学 * 講評 *

【1】(2)のけた数の問題に苦戦した人が多かったようだ。小さい数で実験するなどして、解答の流れを掴んでおきたい。【2】 $P(x, y)$ として面積を x, y で表したものは「 $x=y$ のとき最大」といきなり結論しているものも見られた。根拠不明である。円が絡む問題では三角関数を利用するとスマートに解決できる問題も少なくないので、この点に留意して今後演習に取り組もう。【3】関数のグラフを利用するという方針はよく立てられているようで全体的にまずまずの出来である。【4】2変数関数の最大値・最小値問題であり、計算量も多いので完答するのが難しい問題であった。入試では計算力(腕力)が要求される問題もあるので、日頃の演習で最後まで計算することを心がけて欲しい。今回は数列、図形と方程式、ベクトル、微分積分といった分野を中心に出题した。これらは文系・理系を問わず入試で頻出分野であるので、今回の結果を自分なりに分析して、今後の学習計画を立てて欲しい。

国語 * 講評 *

【一】は戦後の日本社会を「理想主義」と「現実主義」の変容を手がかりに分析した評論文。本文の抽象度はやや高いが、記述問題(問3、問4)の難易度は決して高くない。むしろ客観問題(問5～問8)の出来が「文章の本質を捉えたか否か」を判断できる設問だ。復習には、解説を熟読のうえ本文を200字程度で要約してみるとよい。【二】は森鷗外の小説からの出題。本文は「近代」の時代背景の理解が要求された文章ともいえ、高度な読解力が要求される。問6記述問題は字数指定も厳しいため、「まとめきれなかった」解答となりやすい。【三】古文はいずれも文法知識事項を根拠に据えた選択肢であり、大意把握と同時に基礎力を併せ問う設問である。特に問1、問4(知識単独設問)の失点は、この時期としては厳しい。文法知識事項については、読解演習のなかで逐一確認する姿勢が望ましい。【四】漢文は全体的に学習が遅れがちになる分野。必須句法の完成は言うまでもないが、今回の本文のように、文章終盤にある主張を比喩や寓話を通して伝える構成を一つの典型パターンとして頭に入れておくといだろう。

* 東大を志望する場合の目安 *

実力テストの結果はいかがでしたか？東大を志望する場合、目安として3教科の偏差値60以上が一つの目標になります(もちろん科類により難易度は異なります。文一や理三の場合は3教科の偏差値65以上と考えるとよいでしょう)。ただし、これはあくまで1つの目標にすぎません。過去には、現時点では偏差値45前後でも1年間の頑張りで合格された方もいらっしゃいます。今回満足する結果が出なくても、各教科の弱点をしっかりと分析、克服していくことが最終的な合否につながりますので、フォローアップ面談などを十二分に活用して、今後の学習プランに加えるべきものがあるかどうか、もう一度見直してみましょう。すでに本科の受験生講座がスタートしております。長期の学習スケジュール＝年間計画はすでに立てていますか？今後は、河合塾・駿台などの公開全国模試を受験するようにしましょう。いずれの場合も、偏差値、判定などの結果のみに一喜一憂するのではなく、自らの弱点を冷静に見極め、中期、短期の学習スケジュールを軌道修正していくことが肝要です。模試・テストは自分の弱点に気づくための手段です。第一志望校の合格を目指して、引き続き頑張ってください。